

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 総務委員会
2. 視察期間 令和8年6月1日から 令和8年6月1日までの 1日間
3. 視察先 福岡県 朝倉市
4. 視察項目 庁舎整備について
5. 参加者 〔委員（議員）〕 山口 雅夫、奥村 橋倫、森 遵、森 竜子、古庄 和秀、塩塚 敏郎、 崎山 恵子 〔同行〕古庄委員の介添人1名
6. 考察 別紙のとおり
以上のとおり、報告いたします。 令和8年6月29日 報 告 者 _____ 山口 雅夫 _____ 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

I. 福岡県 朝倉市

【視察事項】庁舎整備について

■福岡県 朝倉市（【人口】49,265 人 【面積】246.71 km²）
議員数 17 人 R8.4.30 現在

■視察目的

本市の市庁舎整備基本計画策定に向け、令和8年1月開庁の朝倉市における整備の考え方や課題、開庁後の意見などを参考にするため、視察先として選定した。

■概要

（1）これまでの経緯

時期	内容
平成27年8月	庁舎整備基本構想策定
平成28年3月	庁舎整備基本計画策定
平成30年3月	庁舎建設基本・実施設計完了 ※九州北部豪雨災害により事業一時凍結
令和元年	確認申請提出
令和4年6月	事業再開
令和5年3月	庁舎建設実施設計修正設計完了
令和6年2月	建設工事着工
令和7年11月	建設工事竣工
令和8年1月	開庁

（2）事業費

総事業費 76 億 2,200 万円（予定）

総工事費 60 億 5,990 万円（本庁舎、付属棟、来庁者駐車場部分）
※インフレスライド2回

（3）構造計画

- ・災害時の情報発信基地や応急対策活動施設としての機能を重視し、耐震性と継続利用の観点から免震構造を採用し、免震構造との組合せで効果の高い鉄筋コンクリート造を採用した。

【R4修正設計変更点】

- ・省エネ（ゼロカーボン対応）

外部サッシの真空複層ガラス化やエレベーターに回生電力を活用し、エネルギーを最小化した。また、昼光を取り込み、照明出力の自動調整など自然エネルギー活用や長寿命化（外壁外断熱と内断熱の二重化）、創エネも導入し、40%削減から、52%削減となっている（ZEB-Oriented相当）。

- ・雨水対策

新庁舎建設に当たり、農地をアスファルト化したため、70 m³のボックスカルバートを設置したり、職員駐車場を10cm下げて、雨水の一時貯留ができるようにしている。

- ・コロナ対策

エレベーターは、車椅子、ストレッチャー対応の十分な広さ（1基ずつ）を確保し、非接触ボタンを導入するなど多機能化を行った。

- ・屋根付き連絡通路の位置変更（市民の利便性に配慮）

- ・電気自動車充電設備の追加

- ・出入口の変更

- ・その他、議会システムやWi-Fi環境等

（４）配置

- ・部署の配置は、１、２階は市民対応、３階は業者対応、４階は管理部門、５階は議会関係とした。

- ・デスク配置は、ユニバーサルレイアウトとし、中央に配線用の溝があるグループデスク（2,400mm×1,300mm）とワゴン（460mm）を採用。係の人数や人事の変更などによって、配線の変更や机を移動する必要がなく、人だけが移動すればよかった。職員に携帯電話を持たせることも検討したが、コスト面で断念、係ごとの内線に対応している。

- ・ワンストップ窓口は、おくやみ、転入、転出に対応している。

書かない窓口については、入力支援を行っている。

- ・バリアフリースイレは、１階から５階まで設置し、右利き左利き対応など、機能を分散している。

- ・旧庁舎解体後、跡地に備蓄等倉庫の建設を予定している。

■委員からの主な質問と回答

Q：食堂がないが、後から、あった方がよかったとの声はないか。

A：市長、議員からの声はある。職員からは、設計段階から理解してもらっていたので出ていない。売店と食堂の利用率を比較して決めた。コンビニを入れたかったが、難しかった（ファミリーマートの自販機はある）。食事・休憩・打合せスペースとして、執務スペースの後方と３階の災害時仮眠室を利用している。

Q：ほかに、後から、こうしておけばよかったと思っていることはないか。

A：市民からは、サインが分かりにくいとの声がある。職員からは、駐車場が狭いとの指摘を受けている。

Q：多目的スペースの利用は、どのようなことを考えているか。

A：まずは、期日前投票や災害時の罹災証明の受付などを想定している。一般市民の方の利用については、今後の検討課題と考えている。

Q：ワゴンは、各デスクに必要か。

A：デジタル関連の部署など、ワゴンがない部署もあるが、これ以内に抑えてほしいという最低の設置という考え方に基づいて設置している。

■所感

- ・側道下にボックスカルバートを敷設し、付近の駐車場にはオンサイト貯留機能を設けるなど、近年豪雨災害に何度も見舞われた地域であるだけに、庁舎周辺の排水対策には非常に力を入れてあった。また、建屋はRC躯体及び免震構造であったが、躯体構造を決定するに当たって、免震機能との相性を考慮した結果、現在の躯体構造を採用されていた。
- ・執務室は、ユニバーサルレイアウトによるデスク配置により、スペース利用の効率化が図られ、すっきりした印象な上に、移動や機構改革時の配置換えにも対応しやすい仕組みを取り入れてあり、機能面も現在の主流である庁舎という印象であった。
- ・議場がイギリス国会型のレイアウトで、当局との距離感も近く、至ってシンプルな構造の割には迫力が感じられる雰囲気があったように思える。正副議長室も分けずに相部屋構造にしてあり、会派制をとっていないことから、議員控室も一つの大部屋を設けてあるのみだが、私物が置いてない分、かなり綺麗な状態であり、議会スペースについても無駄を排した造りになっていたのも、参考になった。
- ・2017年の豪雨の前から移転計画があったものの、豪雨のため一時中断し、昨年末に竣工、1月5日から利用が始まっていた。中断しても設計着手時の各種事業債が活用できるとのこと。本市も、事業費の逡巡に何らかの事業債が活用できればと思う。
- ・免震構造で建てられ、一部5階建て一部3階建てになっていた。免震を基本に検討されたことを参考にして、本市の新庁舎整備を注視していく必要があると思う。
- ・多目的トイレは各階にあり、左右対象になっていたり、介護用ベッドやベビーベッドなどの機能が分散されていた。ただ2021年の設計だったため、車椅子の旋回直径が1.8mの基準ではなく、1.5mの基準になっていた。ちょうど、福岡県福祉のまちづくり条例の規則変更が追いついていない時期だった。本市の新庁舎整備に生かしていきたいと思う。
- ・災害・セキュリティ・変化に強い庁舎として、想定外の浸水対策やマグニチュード7を想定した地震対策に取り組まれていた。地震対策については発災後の対応に重点が置かれ、コスト的に高価であるが、耐震性・継続利用に効果が高く、災害応急対策活動施設に適しているということで、耐震、制震とも比較されたが、当初から免震構造を想定し進められていた。本市においても、コスト縮減が課題である一方、防災中枢拠点として、災害時にも安全に業務が継続できる必要があ

り、どの構造工法がよいのか、様々な視点からの検討が必要と考える。

- ・市民課をはじめとした窓口対応のカウンターは、仕切りの工夫もされており、また職員の執務テーブルとの距離も近く、好感を持った。豪雨災害に備え、雨水の地下貯留施設やオンサイト貯留施設を整備されている点も、大変参考になった。
- ・新庁舎は免震構造や非常用電源の確保など、防災拠点としての機能と市民に開かれた窓口機能の両立が意識された庁舎だった。また、老朽化した旧庁舎からの更新により、耐震性や執務環境の改善だけでなく、市民が利用しやすいレイアウトとＤＸの活用を見据えた計画が具体化している点が印象的だった。
- ・これまでも庁舎整備についての視察を行ってきており、本市の整備も基本計画策定の段階に入ってきたので、より具体的な形をイメージしながらの視察となった。省エネへの工夫や配置についての考え方など、当局とも情報共有しながら、本市の財政状況や現在の建築を取り巻く経済状況なども勘案し、よりよい庁舎整備に向けて参考としたい。